



学校教育目標

豊かな人間性を備え、たくましく生きる生徒の育成

～一人一人[生徒・同僚・保護者]に向き合った教育・是々非々教育の実践～

成東東中 フライド「誇り」 づくり

【1】あたり前のことができる生徒 あたり前のことを一生懸命行い、継続できる

挨拶 時間 清掃 [あ・じ・そ]

【2】大人に近づくことができる生徒 他者を気遣うことができる。

考える 思いやる 我慢できる

自慢できる学校

《めざす学校像》

- ①安心して自己表現できる、学び合いのある学校
- ②思いやりと温もりのある、楽しい学校
- ③自治と正義が育つ、活力ある学校
- ④元気なあいさつと歌声が響く、明るい学校
- ⑤保護者や地域の信託に応える、信頼される学校

《めざす生徒像》

- ①ねばり強く、学び続ける生徒
- ②自己の特性を磨き、生き生きと活動する生徒
- ③自他を思いやり、違いを尊重する生徒
- ④自分自身を律し、正しく行動する生徒
- ⑤しなやかな感性をもち、感動する生徒

《めざす教師像》

- ①教育目標の具現化を図る、意欲あふれる教師
- ②授業の活性化を図る、指導力のある教師
- ③安全で安心な環境をつくる、実行力のある教師
- ④意識改革を図る、発想力豊かな教師
- ⑤保護者や地域の信託に応える、真摯な教師
- ⑥時間を有効活用し、心身の健康を保てる教師

教師の日常実践

★報告・連絡・相談（ホウレンソウ）の徹底★

学習指導

- 生徒指導の機能をいかした「わかる」授業
- 個に応じた指導・支援
- 教材研究（ICT機器の利活用）
- 学習習慣の確立（授業・家庭学習）

生徒指導

- 見通しをもった組織的・積極的な生徒指導**
- 初期対応→正確な情報把握・**情報共有**
複数対応、正確な記録(5W1H)
- スピード感のある対応と慎重な見極め
- 事後観察と継続的見守り

危機管理

- サ・最悪を想定して
- シ・慎重に
- ス・すばやく誠実に
- セ・誠意をもって
- ソ・組織で対処

達成のための方策

1 機動力ある組織の確立と信頼される学校づくりの推進

- ・「ウェルビーイングの向上」「福祉教育の推進」「教育DXの推進」等、特色ある学校づくりを推進するとともに、その成果と課題を確認しながら新たな改善につなげるPDCAサイクルを確立して組織強化に努める。
- ・デジタル連絡網を活用した各種だよりの発行や予定等の周知により、学校の情報公開を進めるとともに、フリー参観週間を学期1回実施して、地域に開かれた学校づくりを推進する。
- ・学校評価アンケートを年2回（7・12月）実施し、その評価を学校経営に生かすための学校評議員会を年3回（5・10・3月）開催し、学校経営の改善を行う。
- ・**週27時間授業の推進**、部活動ガイドラインの順守等により、学校における働き方改革を推進する。

2 主体的・能動的に深く考える学習の推進

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善により、生徒の学習意欲を高め、学力向上を図る。
- ・GIGA 端末や電子黒板の効果的・積極的な活用により、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
- ・全国学力・学習状況調査、県標準学力検査の結果を分析し、学習指導の充実や学習状況の改善に努める。
- ・定期テストを年4回（技能教科2回）実施し、指導の個別化（個に応じた指導）や学習の個性化に役立てる。
- ・家庭学習を積極的に支援し、生徒の基礎学力の定着を図る（eライブラリー・ちばのやる気学習ガイド活用）。
- ・英語検定・漢字検定を学期1回実施して、生徒の学習意欲を高める（英語検定は年1回分を市が受検料負担）。

3 豊かな心を育む教育と望ましい人間関係づくりの推進

- ・生徒の発達段階に応じた多面的な生徒理解に努めるとともに、生徒指導の三機能（自己存在感の感受、自己決定の場の提供、共感的な人間関係の育成）を意識した指導・支援の実践をとおして、安全で安心な風土を醸成しながら、自己指導能力を身に付けさせる。
- ・「いじめ」を含めた学校生活アンケートを各学期に実施し、その直後に生徒全員と教育相談・面接を行うことで、「いじめ」や悩みの早期発見・早期対応に努めるとともに、記録を残し情報の共有を図る。
- ・道徳教育推進教師を中心に、道徳部会で職員会議に次月の学習について提案し、映像教材等を積極的に活用しながら、「考え、議論する道徳」を意識した指導方法や評価の改善を図る。
- ・生徒会活動や学校行事等は、できる限り生徒の手によって企画・運営させ、生徒の自治的な活動を育む場として位置づけるとともに、生徒が自信と誇りをもてる学校づくりに努める。
- ・**ウェルビーイングの向上をめざし、福祉教育の充実を図る。**（※令和6～8年度千葉県福祉教育推進校指定）。

4 安全で安心な環境づくりの推進

- ・校内の施設・設備の安全点検（見て・触れて・負荷をかけ）を毎月1回実施し、修繕・改修が必要な箇所については、関係機関と連携して早期に対処し、安全の確保に努める。
- ・学年始めに交通安全教室を開催するとともに、毎日の短学活や登下校時を利用して交通安全指導に努める。
- ・実効性のある避難訓練（4月「不審者対応」、9月「地震・津波」、1月「火災」）を実施する。また、危機管理マニュアル等を見直し、家庭・地域と連携して災害に強い学校づくりをめざす。
- ・生徒の安全・安心を確保するため、関係機関と連携を図りながら、SOSの出し方教育、情報モラル教育、生命（いのち）の安全教育、薬物乱用防止教育、長期休業前の安全指導等を、適切な時期に実施する。
- ・「成東東中学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止に関する職員間の共通理解を図り、未然防止・早期発見・早期対応に努める。また、いじめアンケートを年5回（5・6・9・11・2月）実施するとともに、相談窓口の周知を定期的に行う。

5 多様なニーズに対応した教育の推進

- ・特別支援教育については、個別的教育支援計画・個別の指導計画を作成し、生徒一人一人の状態や教育的ニーズ等に応じた合理的配慮の提供に努める。また、特別な支援や配慮が必要な生徒について共通理解を図る場の設定（毎月の職員会議）、特別支援教育推進委員会の開催（年4回4月・学期末）等、校内体制の整備に努める。
- ・不登校生徒への支援、日本語指導が必要な生徒への支援等については、校内教育支援センター（学習室）等を有効活用し、関係機関との連携を図りながら、個に応じた適切な指導・支援を行う。

6 実践的研修の推進

- ・「千葉県・千葉市教員等育成指標」に基づいて、自らのキャリアステージに応じた継続的な研修への主体的な参加を推奨する。【研修履歴システム「全国教員研修プラットフォーム：Plant（プラント）」】
- ・研究主任が中心となって生徒の実態や職員のニーズに応じた実践的な校内研修を、計画的に実施する。
- ・実践的知識や指導技術を先輩教員（メンター）から若手教員（メンティー）に引き継ぐ場（メンターチーム）を校内に整えることで、若手教員の育成を図る。
- ・管理職による不祥事根絶研修を計画的に実施して職員の綱紀保持の徹底を図るとともに、各種危機管理マニュアルを熟知して適正に対応できるように校内体制を整備する。
- ・ボトムアップ型のモラルアップ委員会を定期的開催し、風通しの良い職場づくりを推進する。

本年度の重点目標 ～みんなが「安心」と「楽しさ」を実感できる学校へ～

○学習指導

「わかる楽しさ、できる喜びが味わえる授業の実践」

→「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、指導と評価の一体化
GIGA端末・電子黒板の積極的活用、少人数指導（数・理・技・家）の効果的活用
家庭学習へのきめ細かな指導・支援、各種検定への**早期受検・複数回受検**の推奨
福祉教育の充実（体験学習→課題解決力・実践力）、1年総合「木育」（地域学習）の充実

○生徒指導

「積極的な生徒指導体制の確立と不登校生徒の解消」

→**組織的な生徒指導体制の確立**、生徒会活動の活性化、「考え、議論する道徳」の実践
教育相談の充実と各種アンケートの効果的活用、いじめの未然防止・早期対応・早期解決
教育支援センター（学習室）の効果的活用、SC・心の教室相談員・関係機関との連携

○学校情報化

「ICT機器の積極的かつ効果的な活用」

→校務の情報化推進（情報化認定「優良校」継続）、デジタル連絡網の有効活用
報告・連絡事項のデジタル化と情報共有・共通理解の両立、ペーパーレス化の推進

○働き方改革

「先の見通しをもった計画的・効率的な業務の運営」

→ミドルリーダー（教務主任・学年主任等）のリーダーシップによる業務の効率化
勤務時間内での各種会議・研修の実施、業務負担の平準化（業務分担の見直しや適正化）
※規則で定める時間外在校等時間「1か月45時間以内、1年間360時間以内」の実現